

連携先世界遺産： 醍醐寺 残るもの、移ろうもの

時代を経ても、災害を経験しても、醍醐寺には変わらないものがある。
変わっていくものと変わらないものを写真展で追う。

■ 受講生

出原 杏奈 (龍谷大学・社会学部・1年生)、井上 樹 (龍谷大学・社会学部・1年生)、
岡本 春奈 (大谷大学・文学部・1年生)、佐倉 渉真 (龍谷大学・社会学部・1年生)、
高岡 宏幸 (龍谷大学・社会学部・1年生)、谷 詩織 (立命館大学・文学部・4年生)、
松波 朋也 (立命館大学・文学部・4年生)

■ メンター(過年度受講生のうちスタッフとして雇用する者)

中川 美月 (龍谷大学・社会学部・3年生)、徳田 舞美 (龍谷大学・社会学部・4年生)

■ 担当教員

笠井 賢紀 (龍谷大学・社会学部・准教授)

活動目的・概要

本科目では取り組む活動のコンセプトとして【残るもの、移ろうもの】を掲げました。これを実現するために、次ページに紹介する企画に取り組んでいます。

コンセプトが導かれた背景には、今年9月4日に台風21号が醍醐寺を襲ったことがありました。ちょうど夏休みで学生たちが醍醐寺に通って調査をしようと思っていた矢先のこと、当初予定していた活動はすべて停滞することになりました。他方、醍醐寺が大きな被害を受けながらも、つとめて前向きに災害に対処していたことが受講生にとっては大きな驚きでした。

景色が変わったり、建物が少し破損することがあっても、また新たな醍醐寺として甦っていく。それは、醍醐寺には変わらない祈りがあるからだ。こうしたことに気づきを得て、何が残り、何が移ろっているのかを醍醐寺に訪れる皆さんと考えるきっかけを作ろうと2月に向けて写真展を企画しています。



◆ 主な活動(授業や自主活動も含め、自由に記載してください。必要に応じてフォントサイズ等も調整してください。)

I 課題発見フェーズ

第1回～第15回(合宿含む)

II 課題解決準備フェーズ

第16回～第26回

※成果発表会が第25, 26回講義にあたる

III 課題解決実践フェーズ

第27回～第30回および自主的活動

醍醐寺との主な接点

5/7 授業運営協議①
5/12 開講式 (@醍醐寺)
5/20 オリエンテーション(京都世界遺産PBL)
7/20 授業運営協議②
8/4-5 合宿
10/3, 4 復旧ボランティアおよび授業運営協議③
11/19 授業運営協議④
12-2月 企画実施に向けた調査・協議等
2/23 「五大力さん」

活動の成果

醍醐寺合宿と万灯会

2018年8月4日～5日に1泊2日の合宿を醍醐寺境内で行いました。今年度はこの日程を含んで醍醐寺で活動をされていた「少年少女の集い」とプログラムを一部共有しました。

初日はグループごとにテーマを決めて境内を歩き魅力を発見するワークを行った後、グループごとに醍醐寺の各部署（管財、用度、拝観受付等）に分かれてインタビューを行いました。また、仲田順英総務部長より特別講座を受け、夜は「少年少女の集い」とともにレクリエーションと夕食の時間を過ごしました。

境内歩きのワークでは受講生それぞれの感性による発見があり、部署別のインタビューでは参加者としてだけではわからない醍醐寺の働きへの発見があり、部長の特別講座では祈りや歴史といった大きな視点から醍醐寺をみつめることの発見がありました。これらの発見を踏まえ、2日目は午前中に4時間のワークショップを行い、夏休みに向けて各自がどのような取り組みをするかを決めました。

2日目の午後には万灯会のお手伝いをしました。万灯会が始まるまでは小学校の児童がつくった灯籠の組立・設置を行い、自分たちでも灯籠をデザイン・制作しました。始まってからは灯籠の火の番や、仁王門での来場者への挨拶、暗い階段を照らすなどいくつかの役割に分かれて活動しました。



五大力さん(2/23)に向けた企画会議&提案

夏休みの各自の取り組みの中には「醍醐寺を訪れて〇〇を調べる」ということが多く含まれていました。しかし、夏休みの終盤、9月4日に醍醐寺を台風が襲い醍醐寺での訪問調査が困難な状況になりました。そこで、スタッフや本科目の修了生は醍醐寺でのボランティア活動に従事しました。

受講生は醍醐寺に訪れることができなかつたため、先輩・教員の報告を聞き、例年通り2月23日の「五大力さん」に照準を合わせ企画会議を行いました。当初、各自1案ずつ持ち寄ったものには「災害を乗り越えてきた歴史を振り返る」「地域の人にとっての思いでの醍醐寺を比べる」といったさまざまなものがありました。本報告の冒頭にあるようなテーマに落ち着きました。

12月の成果報告会はまだ企画が確定して動き出した段階での報告ですが、2月の企画実施に向けて受講生一同、真剣に準備に取り組んでいます。



活動を振り返って

■受講生一人ひとりの感想をそのまま掲載します。

私は講義の中で意見を発言する大切さを知りました。郊外活動を通して社会と関わり、課題に取り組むPBL活動は自分の力を試す場としてとても良い経験が出来ます。（出原）

物事の捉え方・考え方から、意見を出し合う際の技術に至るまで、今後広く長く活用できる事柄を多く学ぶことができ、嬉しく思っています。（井上）

この講義を通して意見を発言することの大切さやグループワークの方法、問題の考え方などを学びました。これからのにも活かせる良い経験が多くできたと思います。（岡本）

企画会議や現場での課題発見など、今までの学生生活では経験できなかったことが本格的かつ実践的に学べたため、私はPBLを受講してよかったと思います。（佐倉）

PBLは私がこれまでに経験のないインタビュー方法や自分たちでの課題発見など学ぶべきことがたくさんあり、今後活かしていこうと思いました。（高岡）

講義や合宿を通して、課題の発見や解決案を考えることの難しさを知りました。一人ひとりが話し合いに参加し課題の解決に挑まなければならないと感じた半年でした。（谷）

自発的な学びをすることができ、少人数で話し合うことによって多角的な方法や内容の意見が出て学ぶことができ、良い経験ができた半年でした。（松波）

担当教員からのコメント

笠井 賢紀

今年は京都世界遺産PBLの第2フェーズということで方法を変更し、特に合宿の時期が大きく変わった。しかし、例年通り受講生が醍醐寺に足を運ぶ回数のごく僅かでありメンターや修了生の方が醍醐寺に通っている。写真展という方法を用いて参加者間の交流を生みつつ醍醐寺の「残るもの」と「移ろうもの」を考えていこうという意義深い課題に受講生たちはたどり着いた。ぜひ成果報告会を終えた後は、足繁く醍醐寺に通い、写真にまつわるエピソードと真剣に向き合い、先輩たち同様に修了後も醍醐寺に行きたくするような関係性を築いてほしい。

（本科目は例年、成果報告会に間に合うように成果を出そうとは当初から目指していない。その点、他科目の教員・受講生には、足並みがそろわないことをお詫び申し上げ、ご理解をたまわりたい。）

活動資料

＜毎週の授業(通年)＞

①チェックイン

全受講生が1人30秒ずつ話す

②授業内容

前半はPBL関連の知識・技術
後半は企画会議

③チェックアウト

全受講生が1人30秒ずつ話す

★毎回全員がかなり発言することになる。ミーティングではメンターが相談に乗ってくれる。



1学期間メンターが発信し続けたFacebookページ



授業のない日も受講生のキャンパスや
キャンパスプラザ京都に集まって企画会議